

2 財政に関する取組

地方公共団体の予算の執行状況や財務状況の実態を把握している強みを活かし、財政課題解決に向けた官民連携手法の活用を支援するなど、地方公共団体の健全な財政運営に寄与しています。

人口減少×汚水処理 ～過疎地から考える「浄化槽セミナー」～

地域の重要なインフラである「下水道」の経営が多くの市町村において厳しい状況にある事実に着目し、これからの汚水処理について考えてもらう「浄化槽セミナー」を開催。関係機関が抱える課題が共有され、課題解決に向けた取組が期待される。

トイレって奥が深い！



概要

そもそも「浄化槽」って？

- ・微生物の働きを利用した、各家庭に個別に設置するいわゆる「小さな下水道」
 - ・下水道の管路を接続する必要がない
- ⇒老朽化を迎える下水道の代わりになり得る
⇒人口減少が進む過疎地や面積が広い地域などに効果的



(とある家庭の外庭)

(各家庭に埋まっている浄化槽)

- 青森県内市町村の「下水道」の経営を分析したところ、一般会計からのサポートによって何とか運営している厳しい経営状況。
- 「浄化槽」は特に過疎地の町村部などでは人手不足等で行政があまり関与できていない分野であることが判明。

そこで、浄化槽の公共管理や財政面からの下水道との比較など、これからの汚水処理について考えてもらう地方公共団体職員向けの「浄化槽セミナー」を青森県と共同で開催。

取組の成果



4者のコラボによるオンライン開催

青森県
青森財務事務所
県内の汚水処理の
現状・方針



十和田市
五戸町
公共浄化槽の
事例共有

- 「キャッシュフロー」で下水道の財政負担の現状を解説
- 関係機関をつないだ「考える場」の機会を創出
- 地方公共団体の課題が共有され、課題解決のきっかけに
→ これにより、以下の取組が期待される。
 - ・ 公共下水道から浄化槽への整備検討
 - ・ 個人設置型から行政による公共浄化槽整備の検討促進

<参加者の声>

次年度は施策にも反映させたいので、予算編成期に開催してほしい！

財政面からの話が非常に参考になった！

今後もニーズが見込まれるため、継続開催の予定！

同じ悩みを抱える複数の地方公共団体への課題解決型勉強会

財務状況把握ヒアリングや財政融資資金貸付先実地監査で把握した地方公共団体が抱える課題の解決に向けて、財務局が有するノウハウやネットワーク、ハブ機能を発揮して勉強会を開催。

概要

- 地方公共団体(以下「団体」という。)からのニーズに応じ、各課題の解決に有効な講義内容とした勉強会を継続開催。
- 課題に応じて、有識者や好事例取組団体から講師を招聘。
- 講師への質疑応答や参加した団体間での意見交換を実施。

【勉強会の講義内容】

- ①財務状況把握ツールを活用した各参加団体の現状・課題分析
- ②遊休化施設の有効活用のポイントと活用にあたっての民間活用(PPP/PFI)[※] (※PPP：官民連携事業、PFI：民間資金等活用事業)
- ③公共施設の整備に際してのPPP/PFIの活用
- ④遊休化した施設の活用実践例『都市交流施設・道の駅保田小学校』
- ⑤良好な下水道経営の持続に向けた経営改善策等
- ⑥経費回収率に着眼した料金改定及び人工衛星を活用した漏水調査の各実践例

(参加団体)

- ①②④千葉県茂原市等 ③栃木県上三川町 ⑤⑥埼玉県加須市等

取組の成果

【勉強会の模様】



【参加団体の様子】

【講義の様子】

- 財務状況把握の手法での財務分析は新たな気づきを生むほか、遊休化施設活用方法や下水道経営改善に係る知識習得は地方財政の健全化につながり、国の財政健全化への寄与も期待できる。
- 参加者からの声
 - ・他団体の成功事例や住民との合意形成方法、講師を務めた有識者から得た知識を活用していきたい。
 - ・参加者間で今後も継続して意見交換したい。

【参考】(昨年度の勉強会に参加した者からの声)

- ・学習したキャッシュフロー分析を予算編成時に活用している。
- ・有益性を理解したのでPPP/PFI関連予算を令和6年度に計上。

地方公共団体のニーズに応じた地域課題の解決サポート

市町村長との意見交換等で把握した地域の課題に対し、外部機関等と連携し、地方の先進事例にフォーカスした「**公共施設等マネジメントセミナー Ver 2.0**」を開催。

概要

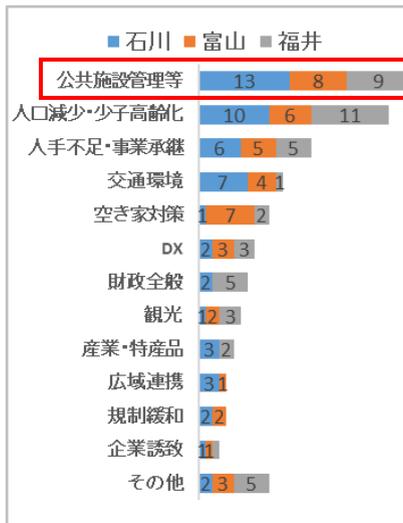
開催の経緯

- 毎年度、北陸財務局が実施している市町村長との意見交換等において「公共施設管理が課題で財政にも影響」との声を把握。
- 前回令和4年6月に開催した同セミナーの結果や地方公共団体のニーズ等を踏まえ「進化系第二弾」として開催。

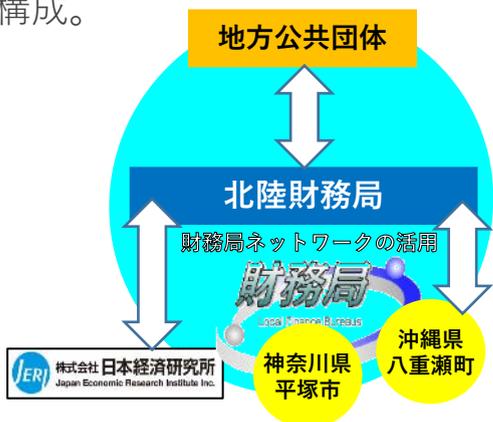
「実践へのNext Stage」

- 前回セミナーのアンケート結果を踏まえ、地方の先進事例にフォーカスした構成。
- 外部専門機関による基調講演のほか、財務局のネットワークを活用し「収支改善取組事例集」(財務省理財局公表)に掲載されている北陸管外の団体からの事例紹介等も実施。

市町村長との意見交換の実施結果より地域が抱える課題（令和4事務年度）



※ 意見交換の内容を当局にて分類・集計(複数回答)。数値は団体数



取組の成果

- 北陸3県の27地方公共団体の参加申込があり好評を得た。(令和5年11月セミナー開催)
- 市町村との定期的・継続的な対話で把握した地域共通の課題への解決サポートにより、地方公共団体にとって有益かつ効果的な取組。

【参加者の声】

- ・北陸3県の地方公共団体の公共施設の現状が客観的データで比較できたことが良かった。
- ・公共施設の料金改定についての参考にしたい。
- ・初めての取組における苦労話や工夫した点などの話がとてもリアルで、興味を持って聞いた。

株式会社日本経済研究所による講演の様子



沖縄県八重瀬町による説明の様子



神奈川県平塚市による説明の様子



持続可能な地域づくりについて考える フューチャー・デザイン研修

岡山県真庭市において、職員が中長期的な未来からの視点をもって政策立案に取り組むため、未来志向であるフューチャー・デザインに着目し、職員への研修を実施した。

概要

- 同市においては、職員に目先の課題解決だけを考えた施策や予算ではなく、市の未来や持続可能な地域づくりという視点を持って政策に取り組んで欲しいという思いがあった。
 - そこで、財務省が進めているフューチャー・デザイン(※)という考え方を取り入れることにより、職員の意識を変えることができるのではないかと考えた。
- ※社会の様々な課題を考える際、現在の世代だけではなく、その課題の影響が及ぶ「未来の人々」の立場も踏まえて議論しようという取組。



未来人（イメージ図）



多くの職員が研修に参加

取組の成果

- 充実した研修
 - ・財務省主計局職員による説明の後、同市の職員が「将来世代が生きる真庭市」をクリエイティブに想像し、現世代へメッセージを送った。議論は白熱し、笑い、驚きありの研修となった。



未来人の議論が白熱

- 参加者からの声
 - ・今の政策が未来につながるのか考えるきっかけになった。
 - ・将来世代の意見をひとつの視点として政策決定に当たり考慮していきたい。
- 今後の展開
 - ・同市においては、今後、具体的な施策の検討に当たっても、フューチャー・デザインの手法を取り入れることを検討している。
 - ・財務省では、今後も持続可能な社会の実現のため、研修等を通じて、自治体等に対してフューチャー・デザインの考え方の浸透に努めていく。

地方公共団体の職員向けに地域課題の解決方法を紹介

福岡財務支局は、日本政策投資銀行などの関係機関と連携し、地方公共団体職員向けに地域課題の解決の一助となるセミナーを開催。

概要

○「公共施設の老朽化に伴う更新や統廃合等の検討が必要」という団体の声を受け、日本政策投資銀行と連携し、先進団体の事例などを紹介するセミナーを開催。



【公共施設等マネジメントセミナーの様子】

○また、上記セミナーに参加した団体より、官民連携への関心の高さを把握し、その手段であるPFS/SIB(※)の特徴や、国内の取組状況などを紹介するセミナーを開催。

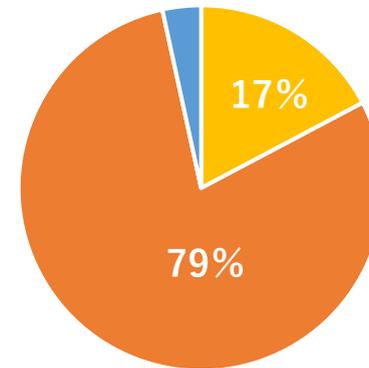


【PFS/SIBセミナーの様子】

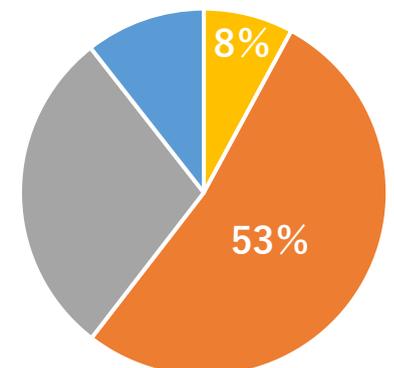
※PFS(Pay-For-Success)/SIB(Social-Impact Bond)
国・地方公共団体等が民間事業者へ事業委託等する際に、事業成果に基づいて報酬額(支払)を変動させる仕組み

取組の成果

公共施設等マネジメントセミナー



PFS/SIBセミナー



■ とても良かった ■ 良かった ■ 普通 ■ あまり良くなかった

参加者の声

- ・一人当たりの公共施設の面積が県内で一番多い自治体であるので、施設の統合等を進めていかなければいけないと感じた。(公共施設等マネジメントセミナー)
- ・成果連動型における成果指標の事例や注意点についてもっと聞いてみたい。(PFS/SIBセミナー)